

【例題】高卒程度-農業

病害虫に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1. 作物が病気にかかるのは、病気にかかりやすい作物の状態（素因）、病原体の存在（主因）、病気の発生しやすい環境条件（誘因）の3つの要因のうち、1つ以上の要因が満たされたときである。
2. 総合的病害虫管理（IPM）は、多様な防除法を活用し、有害生物をゼロにする技術である。
3. 養分欠乏症、高温・低温や強い日光による生育障害、農薬による薬害は、生理障害であり周囲の作物に伝染しないため、病害とは区別して分類されている。
4. 作物の病原体には、菌類、細菌、ウイルスがあり、最も小さな病原体は細菌である。
5. ウイルスは、昆虫やセンチュウなどの生物を介するほか、管理作業時の接触、接ぎ木などにより作物に侵入する。

【例題】高卒程度-農業

麦類に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1. 穂を分化するために必要な低温要求度を秋まき性程度といい、一般に、コムギでは寒地ほど秋まき性程度の低いもの、暖地では高いものが栽培されている。
2. コムギは製粉されてうどんやパン、オオムギは焙煎や精麦工程を経て麦茶や押し麦などの用途に利用される。
3. 麦類の重要病害であるしまい縮病は、抵抗性品種を導入することで回避できる。また、播種時期を早めることによっても被害を軽減できる。
4. 国内で生産される麦類の流通は、政府が生産者の申し込みに応じて無制限に買い入れる間接統制がとられている。
5. 麦類は冬作物であるため、夏作物との二期作が可能で、農地の高度利用や冬期の風食防止、輪作による連作障害回避のための重要な作物である。